

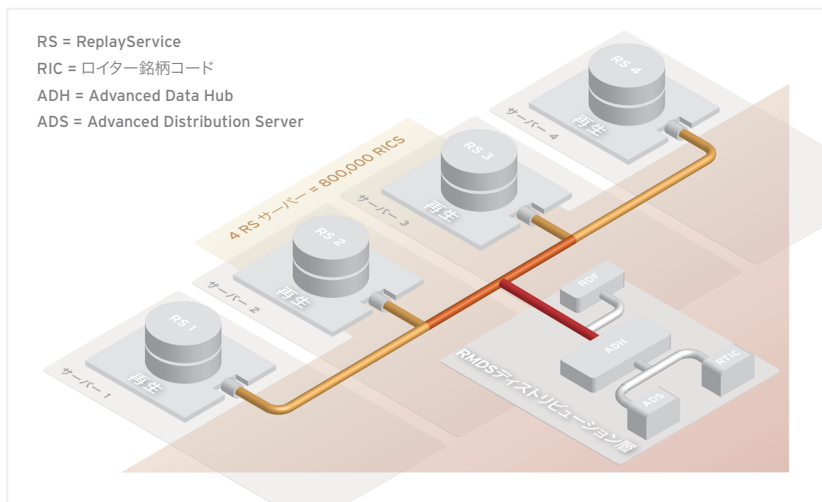
市況情報キャパシティ計画 サービス

現行システム基盤は、キャパシティの変化に対応できますか？

市況情報の更新頻度が爆発的に高まる昨今、現行基盤がその負荷に耐えられるかどうか確認することが不可欠です。

トムソン・ロイターは、ソフトウェアテストパートナーのCodeStreetとともに、御社内のTREP/RMDSプラットフォームやアプリケーションの負荷テストを行うため、エンド・ツー・エンドのキャパシティ（容量）計画やテスト対策を提供いたします。

CodeStreetとトムソン・ロイターのエンジニアは、ReplayService for TREP/RMDSを使用し、TREP/RMDSプラットフォーム上でのデータの保存とそのデータの再生を伴うテスト環境を構築いたします。これにより、最大100万までの銘柄を様々な更新頻度で市況情報基盤に送り込むことができます（下図をご覧ください）。まず最初にTREP/RMDSからデータを保存し、次にそのデータを様々な更新頻度で再生することにより、現行基盤の限界点が特定でき、本番環境で同様の問題が起こる前に対策を講じることができます。



ランダムデータを使用した基盤テストは、もはや有効なテスト手段としては受け入れられません。レイテンシ（応答遅延）やキャパシティを実際の市況において評価するためには、テストデータはできる限り現実に即したものでなければなりません。ReplayService for TREP/RMDSは市況と同一な環境を再現することができる上、ニーズに合わせてデータ更新頻度を上げることができます。想定される様々な市況をひとつひとつ正確に再現できるので、市況条件の変化が現行基盤に与える影響を測定することができます。

ソリューションとして、複数のReplayService for TREP/RMDSインスタンスを設定スクリプトとともに、複数のマシンに展開します。テストに必要なハードウェアのスペック・構築の手順・データのリストも一緒に提供いたします。

仕様(100万銘柄の場合)

ReplayService for TREP/RMDSの20インスタンスを、5台のサーバーで構成します。

サーバー:

5 x HP Proliant DL 385 シリーズ
(または同等スペックのサーバ)

CPU:

4 x インテルXeon、或いは AMD Opteron
(最低スペック)

メモリー容量:

8Gb

HDD:

ドライブスロットが6口の場合:
2 x 140Gb SCSI (RAID-1)、OS用
4 x 140Gb SCSI (RAID-0)、RS-TREP/
RMDSインストール用

OS:

Linux RHEL3もしくはRHEL4/5/6

ソフトウェア:

RS-TREP/RMDS 4.04

ネットワーク:

Gigabit Ethernet ギガビット・イーサネット

お問い合わせ:

sales@codestreet.com

646-442-2800

またはトムソン・ロイターのお客担当営業
にご連絡いただくか、トムソン・ロイターの
カスタマーゾーンをご覧ください。



ReplayService for TREP/RMDSはトムソン・ロイターの市況情報のユーザーやアプリケーション開発者向けツールです。



CodeStreet, LLC
200 Park Avenue, 17th Floor
New York, NY 10166
Telephone 646 442 2800
www.codestreet.com